

常磐高等学校 令和7年度 学校重点目標並びに学校自己評価表

(計画段階 ・ **実施段階**)

| 学 校 運 営 計 画 | | | | 総合評価(3月) | | |
|--|--|--|---|----------|--|--|
| 学校運営方針 | 知育、徳育、体育の三位一体を基盤として、至誠の心を育み、自由清新な気風で、心豊かな行動力のある社会有為の人材を養成する。 | | | B | | |
| 昨年度の成果と課題 | 本 年 度 重 点 目 標 | 具 体 的 目 標 | | | | |
| 「授業が全ての教育活動の根幹」を合言葉に、創意工夫の授業と授業評価アンケートを活用した授業改善により、わかる授業と学習意欲の向上を図った。またシラバスの活用により、学習の定着を行った。結果として国公立大学に15名、私立大学に71名が合格した。進路指導においては、各コース別のキャリア教育プラン活用を徹底し、進路活動の充実と、希望進路の実現を図る。生徒会や各種委員会活動が活性化し、生徒主体の学校に大きく変わってきている。今後も生徒の自治活動の更なる充実を図っていく。教職員は研修によりスキルアップを図るとともに各分掌の横断的で組織的な取り組みの強化と各部・各学年の更なる連携をはかり、生徒一人一人を大切に指導を行い転退学を防止していく。 | 教科指導力の向上、個に応じた分かる授業により、基礎学力の充実を図る。 | シラバスを活用し、家庭学習を定着させ、「予習、授業、復習、課題提出」の学習サイクルを確立させる。 | | | | |
| | 基本的な生活習慣を確立し、規範意識を高め豊かな人間性を育む。 | ICTを有効活用し、新高等学校学習指導要領の「主体的、対話的で深い学び」を実践する。 | | | | |
| | 各コース別キャリア教育プランを推進し継続的、組織的な指導により希望進路の実現を図る。 | 豊かな人間性を培い、自己の生き方について自ら考え、自ら行動する生徒を育成する。 | | | | |
| | | 「規範意識」を高めると共に相手の立場に立った言動ができる生徒を育成する。 | | | | |
| | 自他の安全を確保する指導を充実し、心身ともに健全な生徒を育てる。 | 大学入学共通テストの変革に対応した授業改革・受験指導を徹底する。 | | | | |
| | | 多様化する進路選択に対応した適切な指導を行い、希望進路の実現を図る。 | | | | |
| | 学校内外で「自他の尊重」意識して、良好な人間関係の構築に努める。 | | 学校内外で「自他の尊重」意識して、良好な人間関係の構築に努める。 | | | |
| | 「思いやりの心」を持って学校生活が送れるよう全教育活動で人権教育・道徳教育を実践する。 | | 「思いやりの心」を持って学校生活が送れるよう全教育活動で人権教育・道徳教育を実践する。 | | | |
| | 具 体 的 目 標 | 具 体 的 方 策 | 評 価 (3 月) | | 次年度の主な課題 | |
| | 学習指導 | 教科指導力の向上 | ・授業規律を第一に考え、ICTやシラバスを活用し「わかる授業」「伸びる授業」のため授業改革を促進する。 | B | A | シラバスの作成と生徒への配布を行い、家庭学習を定着させる。授業評価アンケートをもっと効率よく活かすことができないかアンケートの内容についても検討が必要である。生成AIを利用して授業準備や小テストなどを作成し、より生徒がわかりやすい授業改善を行っていく。 |
| 学習意欲の向上 | | ・定期的な授業評価アンケートで授業改善に努め、教員・生徒が一緒になって「授業満足度」向上を目指す。 | A | | | |
| 生徒指導 | 公共心の向上 | ・出席率の向上が学習意欲の向上に繋がることを認識させ、各学年「月間出席率」99%以上を目指す。 | B | B | 今年度以上に情報共有を図り、全教員が同じ目線で生徒に対して指導を行うことができるようにしていきたい。また自己肯定感を高め、他者理解を深めることで、公共心を育む教育を今年度以上に充実させていきたい。生徒会活動においては、委員会間での活動に差が生じたことを反省しながらも、更なる自治活動を推進できるようにしていきたい。 | |
| | 生徒会活動の活性化 | ・予習・授業・復習の学習サイクルを習慣化するため、家庭学習時間を確保する手立て(宿題・小テスト等)を徹底させる。 | B | | | |
| 進路指導 | 進路学習の充実 | ・教員が率先垂範して、挨拶、返事、礼儀作法、言葉遣いなどの基本的な生活習慣の凡事徹底を図る。 | B | B | | |
| | | ・心の教育を行うことで、自己肯定感や他者理解、公共的な規範を向上させる。 | B | | | |
| | 希望進路の実現 | ・生徒会を中心に生徒自らによる自治的な場ということを理解させ、自浄作用を働かせるように意識を高める。 | A | A | | |
| | | ・生徒会や各種委員会の活動を通じ、生徒が協同して自発的な行動を行うことができるように意識を高める。 | B | | | |
| その他 | 進路学習の充実 | ・各コース、教科ごとの資格取得に向けた明確な目標を設定し、進路決定のための意識向上プログラムを構築する。 | B | B | 学校目標達成に向けて、新たな目標を立て、その取り組みを進路指導部の教員だけでなく、全教員が行えるように先導、指導していく。また、「進路確定の最重要となる鍵は目的意識と動機付け」ということを念頭に、進路行事を単発の“点”として終わらせるのではなく、生徒の成長に沿った“線”としてつながるものになるよう意識しながら、従来の進路行事を一から練り直し、新たな進路行事の構築を実施する。 | |
| | | ・教育活動にICTを積極的に使用し、効率的で戦略的な指導の徹底を図る。 | B | | | |
| | 希望進路の実現 | ・朝課外や土曜講座の精査、模擬試験分析会等を行い、キャリア教育プランを練り直すことにより進路に繋がる学力の定着と意欲の促進を目指す。 | B | | | |
| | | ・「総合的な探究の時間」などの精査、整備を行い、そこから培われる進路実現に向けた+αの力を育成する。 | B | | | |
| その他 | 人権教育の充実 | ・人権教育特設授業や全校生徒への人権講話を通じて、生徒の人権意識と自己肯定感の向上によるいじめの未然防止に努める。 | B | A | 【人権教育】 ・特設授業の質の更なる向上を図り、現在の生徒の実態に沿った内容になるように充実させる。 ・特にSNSトラブルの防止に力点を置いた人権講話を展開する。 【広報部】 ・プラスシードによるオープンスクールの受付。 ・Instagramの全教員による担当とフォロワー数アップを目指す。 | |
| | | ・委員会や研修の実施頻度及び質を上げ、さらに各担任による講話が可能になるよう教職員全体の人権意識の更なる向上を目指す。 | A | | | |
| | 広報活動の充実 | オープンスクール・保護者説明会への参加者増を目指すとともに、中学校との連携を強化する。 | B | | | |
| | | ホームページ・SNSの随時更新をおこない、生徒の活躍や部活動等の状況を広く発信する。 | A | | | |